令和４年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業（精神障害分野））
医療観察法における専門的医療の向上と普及に資する研究
分担研究報告書

指定入院医療機関退院後の予後に関する全国調査

研究分担者　竹田　康二　　国立精神・神経医療研究センター病院

研究要旨：

本研究は、医療観察法入院処遇対象者の退院後の予後を把握すること、対象者の予後に影響を与える要因を検討することを目的としている。

令和４年度は、重度精神疾患標準的治療確立事業（医療観察法データベース事業）のデータの利活用に関する研究事業の研究利活用委員会に利活用申請を行い、承認を取得し、医療観察法病棟退院患者の向精神薬処方等に関するデータの提供を受け、解析した。また提供を受けたデータと令和３年度に実施した通院処遇移行対象者に関する予後調査データとの連結解析も実施した。2019 年９月から 2021 年 12 月に医療観察法病棟を退院した対象者のうち、退院時に抗精神病薬が処方されていた統合失調症圏の患者数は 336 名であった。そのうち 84 名にクロザピン（Clozapine:以下、CLZ)、89 名に持効性注射剤（Long Acting Injection:以下、LAI）が処方されていた。CLZ 群、LAI 群、CLZ・LAI 剤いずれの処方もない群の３群に分けて比較すると、CLZ 群は平均入院処遇期間が 4.8 年と長く、入院処遇期間中の隔離経験率が 47.6%と高かった。また LAI 群は通院処遇移行者の割合が 95.5%と高かった。上記提供データと昨年度までに収集された通院処遇移行対象者に関する予後調査のデータを退院年月、年齢（10 年齢階級別)、性別（男女)、対象行為、精神科主診断（ICD-10)、退院区分（処遇、居住形態）で照らし合わせ、連結可能であったデータのうち、統合失調症圏かつ退院時に抗精神病薬が処方されていた対象者 103 名について抗精神病薬と通院処遇期間中の予後との関連を分析した。CLZ 群が、非 CLZ 群と比較して、通院処遇期間中の精神保健福祉法入院累積発生率が有意に高かったが 、調整入院者（退院と同時に精神保健福祉法入院）を除いた解析では有意差は認めなかった。

医療観察法入院処遇対象者のうち、退院時処遇終了者の予後に関する研究は、退院時に同意が得られた者について、退院後利用する医療機関にアンケート調査を実施した。令和４年度は合計 10 名のデータが収集された。性別は全員が男性、平均年齢は 57.6 歳、退院時精神科主診断（ICD-10）は F0 が２名、F1 が２名、F2 が６名であった. 退院後の治療は 10 名中８名が継続中、１名は中断、１名は終了（病死）であった。再他害行為、自殺企図、医療観察法による再入院はいずれもみられなかった。精神保健福祉法による入院は 10 名中８名が経験しており、そのうち７名は処遇終了日から調査日までの全日を精神科病棟に入院して過ごしていた。

研究協力者（順不同、敬称略）	
本村啓介	さいがた医療センター
山田悠至	国立精神・神経医療研究センター病院
柏木宏子	同上

A．研究目的

「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（以下、医療観察法）」は、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った精神障害者の処遇と医療について定めた法律である（以下、医療観察法の対象となった者を対象者と記載する）。

医療観察法は長期にわたり法に基づく処遇と精神科医療を対象者に課す制度であり、特に入院処遇は人権的制約が大きい。また多額の公費が投入されている制度でもある。したがって、医療観察入院医療を受けた対象者の予後を適切に把握し、さらなる医療の改善を目指していく必要がある。本研究は、医療観察法入院処遇対象者の退院後の予後を把握すること、退院後の予後に影響を与える因子を検討することを目的にしている。また医療観察法病棟等退院時、多くの対象者が通院処遇に移行するが、一部の対象者は退院時に医療観察法による処遇が終了となる[1)]。そこで、本研究は退院時処遇終了者に関する調査も実施している。

令和3年度は、通院処遇移行対象者に関する予後調査研究と退院時処遇終了者に関する予後調査研究を実施した。令和4年度は、新たに触法精神障害者に対する向精神薬処方に関する研究を実施した。医療観察法病棟を退院した対象者の退院時向精神薬処方状況を明らかとするとともに、向精神薬処方が通院処遇移行後の予後に与える影響を明らかとすることを目的に、令和3年度に実施した通院処遇移行対象者に関する予後調査研究で得られたデータと連結解析した。

上記研究については、いずれも国立精神・神経医療研究センター倫理委員会より承認を得て実施した（承認番号 B2020-031、B2020-138、A2022-025）。

B．研究方法

1. 触法精神障害者に対する向精神薬処方に関する研究

1）調査対象

2019年9月より2021年12月までの間に、全国の医療観察法指定入院医療機関32施設（国立病院機構賀茂精神医療センターを除く）の医療観察法病棟を退院した対象者。

2）調査項目

退院時年齢、性別、主診断・重複障害、対象行為、アルコール・薬物問題の有無、入院期間、入院処遇中行動制限の有無、退院年月、退院時処遇・居住形態、退院時向精神薬処方内容など

3）調査方法

重度精神疾患標準的治療確立事業（医療観察法データベース事業）のデータの利活用に関する研究事業の研究利活用委員会に利活用申請を行い、承認を取得し、医療観察法病棟退院患者の向精神薬処方等に関するデータの提供を受け解析した。

また令和3年度に実施した通院処遇移行対象者に関する予後調査研究(全国31施設と協働し研究参加同意取得が得られた者に関し、全国の社会復帰調整官の協力を得て通院処遇期間中の予後データを収集）のデータのうち、2019年9月1日から2021年6月16日までの期間に医療観察法病棟を退院した対象者のデータを、上記提供データと、退院年月、年齢（10年齢階級別)、性別（男女)、対象行為、精神科主診断(ICD-10)、

退院区分（処遇、居住形態）で照らし合わせ連結可能であった者については、向精神薬処方と通院処遇移行後の予後（再他害行為、自殺企図、精神保健福祉法入院など）の関連を分析した。

上記研究については、国立精神・神経医療研究センターホームページで研究の実施についての情報を公開し、研究参加拒否の機会を保障した。

2.退院時処遇終了者に関する予後調査研究

1）調査対象

2021 年 3 月 10 日から 2022 年 7 月 15 日までの間に、共同研究施設である全国 16 の指定入院医療機関を退院時処遇終了となった対象者のうち退院後の予後調査に同意の得られた者である。調査対象期間は、各対象者の退院日から 2022 年 7 月 15 日の間である。

2）調査項目

年齢、性別、精神科診断、対象行為、再他害行為の有無、治療継続の有無、自殺未遂・既遂の有無、物質使用の状況、精神保健福祉法による入院の有無、精神保健福祉サービスの利用状況、住居および就労の状況等・退院後利用した医療・社会福祉資源など

3）調査方法

退院時処遇終了者のうち、研究同意が取得できた者について、調査票に記された調査項目について、共同研究施設である指定入院医療機関の担当者が電話で研究対象者の退院後の治療担当者に聞き取り調査を行い、その結果を回収した。

C．研究結果

1. 触法精神障害者に対する向精神薬処方に関する研究

1）医療観察法病棟退院患者の基本属性

2019 年 9 月 1 日～2021 年 12 月 31 日に医療観察法病棟を退院した 468 名のデータ提供を受けた。性別は男性 348 名（74%）、女性 120 名(26%)であった。年代別で見ると、20 代 36 名(8%)、30 代 95 名(20%)、40 代 136 名(29%)、50 代 90 名(19%)、60 代 63 名(13%)、70 代 40 名(9%)、80 代 8 名(2%)であった。精神科主診断（国際疾病分類第 10 版(ICD-10)で分類）は、F2（統合失調症、統合失調症型障害および妄想性障害）が 373 名（79.7%）、F3（気分障害）が 36 名（7.7%）、F1（精神作用物質使用による精神および行動の障害）が 25 名（5.3%）であった。対象行為(第一選択のみ)は、殺人（未遂含む)163 名(34.8%)、傷害 175 名(37.4%)、放火（未遂含む）98 名（20.9%）が大半を占めていた。

2） 統合失調症圏の対象者の退院時抗精神病薬処方内容による比較

統合失調症圏（統合失調症または統合失調感情障害）の対象者に限定して、抗精神病薬処方内容で分類した対象者の退院時年齢、性別、精神科重複障害、対象行為、入院処遇期間、入院処遇中行動制限の有無、退院時処遇・居住形態などの比較を行った（表 1)。抗精神病薬処方内容別の分類は、以下の 3 群とした。1 退院月にクロザピン（Clozapine：以下、CLZ）が処方されていた群（CLZ 群）、2 退院月に持効性注射剤（Long Acting Injection：以下、LAI）が処方されていた群（LAI 群)、3 退院月に抗精神病薬が処方されていたが、CLZ、LAI は処方されていなかった群（非 CLZ・非 LAI 群)。

退院月に抗精神病薬が処方されていた統合失調症圏の患者数は 336 名であった。CLZ 群は 84 名、LAI 群は 89 名、非 CLZ・非 LAI 群は 163 名であった。

CLZ 群では入院処遇期間中の隔離経験率

が他の群と比較して高く（47.6%）、平均入院処遇期間が CLZ 群では他の群と比較して長かった（4.78 年）。LAI 群は他の群と比較して、通院処遇移行率が高かった(95.5%)。

3）抗精神病薬処方が通院処遇移行対象者の予後に与える影響

医療観察法データベース事業研究利活用事業より提供を受けた医療観察法病棟退院患者の向精神薬処方等に関するデータと、令和 3 年度に実施した通院処遇移行対象者に関する予後調査研究参加同意者のデータのうち 2019 年 9 月 1 日から 2021 年 6 月 16 日までに医療観察法病棟を退院した対象者のデータを、退院年月、年齢（10 年齢階級別）、性別（男女）、対象行為、精神科主診断（ICD-10）、退院区分（処遇、居住形態）で照らし合わせたところ、139 名が連結可能であった。そのうち、統合失調症圏かつ退院月に抗精神病薬が処方されていた対象者 103 名について分析した。表 2 では表 1 と同様に抗精神病薬処方内容により 3 群に分類して抗精神病薬処方と通院処遇期間中の予後の関連を分析した。

103 名全体の平均通院処遇観察期間（通院処遇終了者は処遇終了日まで、2021 年 7 月 15 日時点で通院処遇継続中であった対象者は同日時点まで）は、340.6 日であった。また全体で、通院処遇期間中の他害行為、死亡、自殺企図はそれぞれ 2 件、医療観察法再入院処遇は 1 件認めた。抗精神病薬以外の退院時向精神薬処方についてみると、CLZ 群は気分安定薬処方者数の割合が高かった(48.7%)。

通院処遇期間中の精神保健福祉法入院、非自発的入院、調整入院（通院処遇移行時にそのまま精神保健福祉法入院）経験率はいずれも CLZ 群で最も高かった（それぞれ 51.7%、22.6%、32.3%）。生存分析(Log Rank 検定)では、CLZ 群は非 CLZ 群（LAI 群＋非 CLZ・非 LAI 群）と比較して、精神保健福祉法入院累積発生率が高かったが(p=0.003、図 1)、調整入院者を除いた解析では、有意な差は認めなかった（p=0.121、図 2）。

2. 退院時処遇終了者に関する予後調査研究

研究開始から 2022 年 7 月 15 日までの研究参加対象者数は 10 名であった。平均入院処遇期間は 1,358 日、性別は全員が男性、平均年齢は 57.6 歳であった。退院時精神科主診断は F0 が 2 名、F1 が 2 名、F2 が 6 名であった。対象行為は殺人 1 名、放火 4 名、放火未遂 1 名、傷害 4 名であった。退院後の治療は 10 名中 8 名が継続中、1 名は中断、1 名は終了（病死による）であった。調査期間における再他害行為、自殺企図、アルコール・薬物の摂取はいずれも認めなかった。医療観察法による再処遇は認めなかった一方で、精神保健福祉法による入院は 10 名中 8 名が経験していた。そのうち 7 名は医療保護入院にて、処遇終了日から調査日までの全日を精神科病棟に入院して過ごしていた。現在の居住形態は 10 名中 7 名が入院中、1 名が介護保険施設、1 名が不明、1 名が死亡であった。就労に至った者はいない。生計（複数選択可）は、貯蓄による者が 1 名、家族からの支援による者が 1 名、障害年金による者が 6 名、生活保護による者が 3 名、その他が 4 名であった。入院医療機関で作成されたクライシスプランの活用については、そのまま活用している者が 2 名、加筆・修正して活用している者が 2 名、活用していない者が 4 名、その他の者が 2 名（いずれも未作成）であった。

D．考察

1） 触法精神障害者に対する向精神薬処方に関する研究

医療観察法病棟では治療抵抗性統合失調

症治療薬であるCLZ治療が積極的に実施されていることが知られている[2)]が、本研究でも統合失調症圏の退院患者（そのうち抗精神病薬が処方されていた者）の 25%がCLZを処方されていた。CLZ群において平均入院処遇期間が長期であったこと、行動制限率が高かったことからは、CLZ 群は他の群と比較して治療困難な症例が多いと推測された。臨床的には病的体験や問題行動が激しかった対象者がCLZ導入により病状が安定し退院につながったケースは少なくない。本研究結果はCLZの治療効果を否定するものではなく、治療困難な症例にCLZが導入されたという結果を表していると推測された。もっとも、ケースによっては対象者の居住予定地域においてCLZ治療ができる指定通院医療機関が不足しており、受け入れ先が見つからず入院処遇期間が長期化しているなどの事情が生じている可能性は推測される。今後、CLZ 導入前後における対象者の行動制限率や精神病症状を比較するなどの研究が実施され、医療観察法医療におけるCLZ治療の効果検証が進むことが望まれる。

また持効性注射剤も 26.5%の対象者で実施されていた。LAI 群の通院処遇移行率が非常に高いこと、平均入院処遇期間が非CLZ･非LAI群と比較して長くないことからは、LAI 群は退院後も精神科治療の継続は必要であるが、比較的病状は安定した対象者が多いと推測された。

CLZ群は非CLZ群と比較して、通院処遇期間中の精神保健福祉法入院累積発生率が有意に高かった。もっとも、調整入院者を除いた解析では、有意な差は認めなかったが、調整入院群を除いた調査対象者数がやや小さい(特にCLZ群)ため評価は難しい。今後、CLZやLAIが通院処遇期間中の予後へ与える影響に関して、さらなる研究が望まれる。

2）退院時処遇終了者に関する研究

研究対象者の診断はF0が20%、F1が20%と、いずれも入院処遇者全体よりも高い割合を占めていた。前者では治療反応性が、後者では疾病性が失われることによって処遇終了になったと考えられるのに対して、60%を占めるF2では、治療反応性の限界のために処遇終了になったものと推測された。

研究対象者のうち80%（8名）は処遇終了と同時に精神保健福祉法による入院に移行しており、うち7名は退院日から調査日までの全期間を医療保護入院にて病棟で過ごしていた。今回の調査期間では、再他害行為やアルコール・薬物の摂取は認められなかったが、それは大半の研究対象者が入院中であったためであると考えられた。

退院後、クライシスプランを「そのまま活用している」および「修正して活用している」者 4 人の平均年齢が 41.5 歳であったのに対して、「活用していない」者および未作成であった者 6 名の平均年齢は 68.3 歳と、大きな差がみられた。医療観察法医療に特徴的なツールを活用するうえで、年齢が制約となっている可能性が示唆された。

E．結論

医療観察法病棟を退院した対象者のうち、特に統合失調症圏の対象者の抗精神病薬処方状況と、抗精神病薬処方と通院処遇期間中の予後の関連について報告した。

退院時処遇終了者に関する予後調査研究は徐々に研究参加者数が増加してきた。退院時処遇終了者の多くが医療観察法病棟退院後、精神保健福祉法入院を継続していた。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし

参考文献

1）裁判所ホームページ　司法統計
http://www.courts.go.jp/app/sihotokei_jp/search

2）来住由樹：治療抵抗性統合失調症に対する効果的かつ安全な治療法の確立に関する研究．医療観察法における、新たな治療介入法や、行動制御に係る指標の開発等に関する研究（研究開発代表者平林直次），平成29年度総括・分担研究開発報告書，pp. 73-84，2018

表1　統合失調症圏の医療観察法病棟退院者の入院処遇情報の抗精神病薬処方内容による比較

		CLZ群(n=84)		LAI群(n=89)		非CLZ・非LAI群(n=163)		全体 (n=336)	
退院時年齢	20s, n (%)	7	8.3	5	5.6	16	9.8	28	8.3
	30s, n (%)	19	22.6	19	21.3	40	24.5	78	23.2
	40s, n (%)	28	33.3	29	32.6	49	30.1	106	31.5
	50s, n (%)	21	25.0	17	19.1	32	19.6	70	20.8
	60s, n (%)	8	9.5	13	14.6	15	9.2	36	10.7
	70s, n (%)	1	1.2	6	6.7	11	6.7	18	5.4
性別	M, n (%)	65	77.4	73	82.0	117	71.8	255	75.9
	F, n (%)	19	22.6	16	18.0	46	28.2	81	24.1
対象行為	殺人, n (%)	27	31.0	35	38.9	54	31.8	116	33.4
	傷害, n (%)	35	40.2	36	40.0	64	37.6	135	38.9
	放火, n (%)	15	17.2	11	12.2	36	21.2	62	17.9
	強盗, n (%)	5	5.7	2	2.2	9	5.3	16	4.6
	性犯罪, n (%)	5	5.7	6	6.7	7	4.1	18	5.2
精神科重複障害（F2除く）	F0, n (%)	1	1.2	1	1.1	0	0.0	2	0.6
	F1, n (%)	1	1.2	1	1.1	4	2.5	6	1.8
	F3, n (%)	1	1.2	1	1.1	0	0.0	2	0.6
	F6, n (%)	1	1.2	0	0.0	0	0.0	1	0.3
	F7, n (%)	10	11.9	6	6.7	10	6.1	26	7.7
	F8, n (%)	8	9.5	3	3.4	11	6.7	22	6.5
	F9, n (%)	1	1.2	0	0.0	3	1.8	4	1.2
医療観察法病棟入院中の隔離経験, n (%)		40	47.6	13	14.6	24	14.7	77	22.9
医療観察法病棟入院中の拘束経験, n (%)		9	10.7	5	5.6	8	4.9	22	6.5
平均入院処遇期間, years		4.78		3.02		2.99		3.45	
退院時通院処遇移行者, n (%)		**70**	**83.3**	**85**	**95.5**	**135**	**82.8**	**290**	**86.3**
退院時通院処遇移行者の居住	家族同居, n (%)	7	10.0	16	18.8	22	16.3	45	15.5
	単身生活, n (%)	11	15.7	23	27.1	30	22.2	64	22.1
	施設入所, n (%)	37	52.9	33	38.8	64	47.4	134	46.2
	一般精神科病棟入院, n (%)	15	21.4	13	15.3	18	13.3	46	15.9
	不明, n (%)	0	0.0	0	0.0	1	0.7	1	0.3
退院時処遇終了者, n (%)		**14**	**16.7**	**4**	**4.5**	**28**	**17.2**	**46**	**13.7**
退院時処遇終了者の転帰	一般精神科病棟入院, n (%)	9	64.3	3	75.0	15	53.6	27	58.7
	精神科通院, n (%)	3	21.4	0	0.0	9	32.1	12	26.1
	精神科治療終了, n (%)	1	7.1	0	0.0	1	3.6	2	4.3
	死亡, n (%)	1	7.1	1	25.0	3	10.7	5	10.9

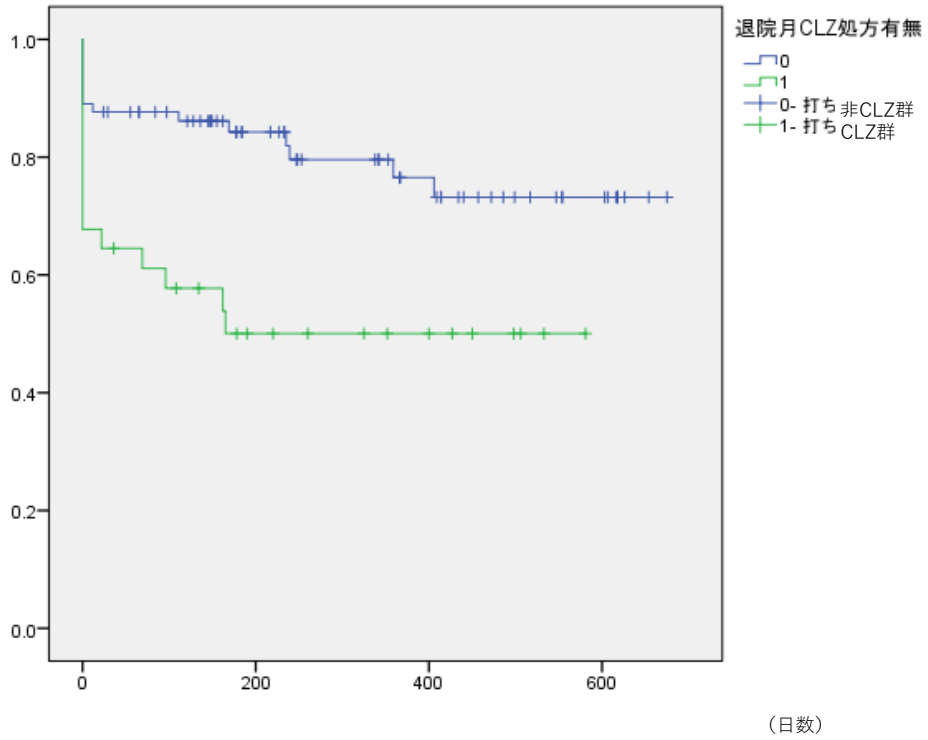
CLZ: Clozapine　LAI: Long Acting Injection

表2　統合失調症圏の通院処遇移行対象者の予後の抗精神病薬処方内容による比較

		CLZ群(n=31)		LAI群(n=33)		非CLZ・非LAI群(n=39)		全体 (n=103)	
退院時年齢	20s, n (%)	0	(0.0)	3	(9.1)	3	(7.7)	6	(5.8)
	30s, n (%)	6	(19.4)	7	(21.2)	10	(25.6)	23	(22.3)
	40s, n (%)	14	(45.2)	13	(39.4)	15	(38.5)	42	(40.8)
	50s, n (%)	10	(32.3)	5	(15.2)	6	(15.4)	21	(20.4)
	60s, n (%)	1	(3.2)	3	(9.1)	2	(5.1)	6	(5.8)
	70s, n (%)	0	(0.0)	2	(6.1)	3	(7.7)	5	(4.9)
性別	M, n (%)	23	(74.2)	24	(72.7)	26	(66.7)	73	(70.9)
	F, n (%)	8	(25.8)	9	(27.3)	13	(33.3)	30	(29.1)
対象行為	殺人, n (%)	16	(51.6)	11	(33.3)	13	(33.3)	40	(38.8)
	傷害, n (%)	8	(25.8)	13	(39.4)	11	(28.2)	32	(31.1)
	放火, n (%)	3	(9.7)	6	(18.2)	13	(33.3)	22	(21.4)
	強盗, n (%)	2	(6.5)	2	(6.1)	2	(5.1)	6	(5.8)
	性犯罪, n (%)	2	(6.5)	1	(3.0)	0	(0.0)	3	(2.9)
平均入院処遇期間, days (中央値)		1887.4	(1371.0)	921.5	(863.0)	955.1	(904.0)	1224.9	(1001.0)
医療観察法病棟隔離経験, n		14	(45.2)	2	(6.1)	2	(5.1)	18	(17.5)
医療観察法病棟隔離拘束経験, n		4	(12.9)	0	(0.0)	1	(2.6)	5	(4.9)
抗不安薬処方者数, n (%)		16	(51.6)	15	(45.5)	23	(59.0)	54	(52.4)
気分安定薬処方者数, n (%)		19	(48.7)	9	(27.3)	11	(28.2)	39	(37.9)
抗うつ薬処方者数, n (%)		2	(6.5)	0	(0.0)	4	(10.3)	6	(5.8)
抗パ剤処方者数, n (%)		6	(19.4)	11	(33.3)	7	(17.9)	25	(23.3)
平均通院処遇観察期間, days (中央値)		341.0	(343.0)	312.7	(248.0)	363.8	(366.0)	340.6	(342.0)
通院処遇中の再他害・迷惑行為（軽微なもの含む）, n (%)		1	(3.2)	0	(0.0)	1	(2.6)	2	(1.9)
死亡, n (%)		0	(0.0)	1	(3.0)	1	(2.6)	2	(1.9)
自殺企図, n (%)		0	(0.0)	2	(6.1)	0	(0.0)	2	(1.9)
医療観察法再入院処遇, n (%)		1	(3.2)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(1.0)
精神保健福祉法入院, n (%)		15	(51.7)	5	(17.2)	9	(31.0)	29	(28.2)
非自発的入院, n (%)		7	(22.6)	2	(6.1)	4	(10.3)	13	(12.6)
調整入院, n (%)		10	(32.3)	3	(9.1)	5	(12.8)	18	(17.5)

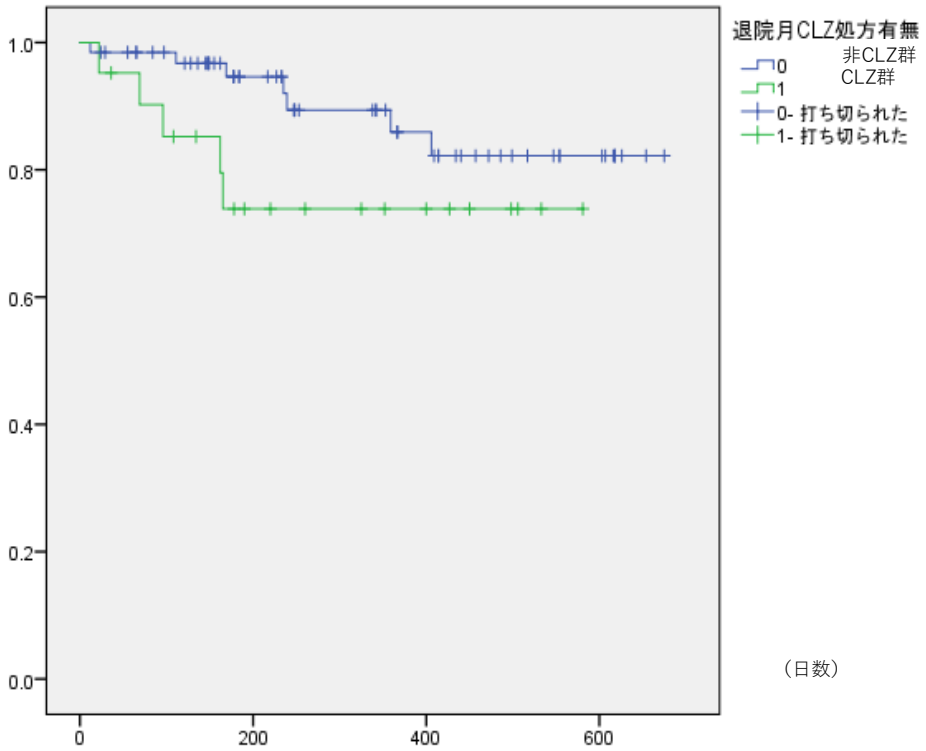
CLZ: Clozapine　LAI: Long Acting Injection

図1　精神保健福祉法入院累積発生率（Kaplan Meier法）



CLZ: Clozapine

図2　調整入院者を除いた精神保健福祉法入院累積発生率（Kaplan Meier法）



CLZ: Clozapine